

第 21 回コーラルフェストかわさきに出演！

私たち富士通川崎合唱団は、さる 2 月 6 日（日）に開催された、「第 21 回コーラルフェストかわさき」に出演しました。このイベントは、地元である川崎市合唱連盟主催の行事で、加盟団体のみが出場する合唱祭です。今回は約 40 団体が参加しました。お互いの演奏を聴き合い、あとで講師の先生から講評もいただけます。私たちも毎年出場を楽しみにしている、恒例のイベントです。

■場所 多摩市民館ホール

■演奏曲

(1) Ne timeas, Maria (マリアよ 畏れるな)【作曲：Tomás Luis de Victoria】

(2) うたを うたうとき【作詩：まど・みちお 作曲：木下牧子】

■指揮：加藤雅子

【当日の様子】



会場となった多摩市民館ホールの入り口

演奏曲の 1 曲目は、昨年出場した全日本合唱コンクールの課題曲である、“Ne timeas, Maria”（マリアよ 畏れるな）という、15 世紀のスペインの作曲家、ビクトリア（Tomás Luis de Victoria）による作品です。この曲は、昨年のコンクールの課題曲であったため、昨年の春から 11 月のコンクール全国大会本番まで、繰り返し練習を重ねてきた、私たちにとってとても思い出のある曲です。今回は、西宮で行われたコンクール全国大会の報告も兼ねて、地元川崎で演奏することになります。全国大会の興奮を伝えることができるのでしょうか。

演奏曲の 2 曲目は、詩人まど・みちおさんの詩に、合唱界の売れっ子作曲家、木下牧子さんが曲をつけた曲です。まど・みちおさんの、シンプルでストレートな詩がずっと心に入ってきます。1 曲目の中世の西洋音楽とは対照的に、洒落た和音を多用したとても魅力的な曲です。



当団練習場（富士通ユニオンビル）での当日練習

いつもの練習場である、武蔵小杉の富士通ユニオンビルでの当日リハーサルを終え、演奏会場である、川崎市多摩市民館に到着します。会場リハーサルでコンディションを整えて、いよいよ本番ステージです。



緊張感あふれる現地リハーサル

指揮者のタクトが振りおろされ、1曲目（去年のコンクール課題曲）の演奏が始まります。出だしのソプラノとアルトの声が入ると、会場に広がっていきます。女声の響きが会場を流れていくなか、今度はテノールとベースが入って、いつもの慣れ親しんだハーモニーが会場に鳴り渡っていきます。2曲目の日本語の曲は、まだ練習期間は短いものの、気持ちを込めて客席に向かって歌うことができました。

合唱団員みんなの声が溶け合い、また、会場の響きと一緒に、重なりあって飛んでいくこの感じ。これがやはり合唱の醍醐味ですね。会場からの暖かい拍手に送られてステージをあとにしました。



演奏後、多摩市民館の階段にて

【記事・写真提供：富士通川崎合唱団（ベース）富士 秀】